

小學國語讀本字解  
尋常科用  
自一至八

特33

903

049279-001-9

特33-903

小学国語讀本字解

大塚 宇三郎/編

M34

BEL-0303





大塚子成編纂

# 小學國語讀本字解

大阪 教育書房梓

特33  
903

凡例

一本書ハ尋常科用小學國語讀本中ノ文字ニ假名ヲ  
附シ解シ難キモノニ註ヲ施シ兒童ノ便益ニ供セ  
ント欲スルニ在リ



一書中宇音假名遣ハ新定ノモノニ依リ其他ハ國語  
ノ假名遣キ從ヒタレバ兒童ハ之ヲ混淆セズシテ  
讀ムベシ且ツ註解ハ最モ俗語ニ涉リタレバ方言  
多シト雖モ何レノ地方ニモ通ズルモノヲ選ビタ  
リ

一書中前ニ載セタル文字ヲ再三記載セシコトアル  
ハ兒童ノ讀ミ難キ文字ニシテ忘レ易キモノナレ



バナリ又(二)(三)等ノモノハ原本ノ丁數ヲ記シタル  
 モノナレバ其ノ文字ヲ求ムルニ當リ原本ト見合  
 セテ讀ムニ便利チ與ヘタルモノナリ第一第二等  
 ノ記載アルハ原本中ニ課ヲ分チタルモノニ依リ  
 掲ゲタレバ是モ亦兒童ノ見易キ爲メヲ計リタル  
 モノナリ

明治三十四年八月

著者誌

小學國語讀本字解尋常科

卷之一

- ダイ一 (一) ハ ハキノ ハナ クサヤ、キニサク (二) フナ イケヤ、カハニヲル ハリ ツ
- ダイ二 (三) クマ ケツヨイ アリ チイサ ○ダイ三 アミ リ
- ダイ四 (四) マス モノヲハカ ハカ ウヲヲ、トルモノ
- ダイ五 (五) カニ ウミ、カハニヲル カメ ヲイケニ ○ダイ六 ワ クモ
- ダイ七 (六) フネ ウミ、カハニヲル ハシ カケル ○ダイ七 ヤ ンクヒモノ、ヲイレル
- ダイ八 (七) ヒノシ キモノ、ハシ ハサミ モノヲ ○ダイ九 ホ マヤマハ、タカシ
- ダイ九 (八) ウマ ヒトガノ ○ダイ十 (九) ホ タカシ



ンヨムソロバンカズラシ ○ダイ九イツ一ヒキ (十)アマニエ

カイダ ○ダイ十スズメガニバサン (十一)マツニツル ガ

マツニ ○ダイ十一セミガナク キニトマリ トンボガトテナクムシ

ブネトンボハ、ハ ○ダイ十二(十三)四レツラビナ ススムム ヘエク

○ダイ十三五ハノツバメゴツハメガ (十四)ミヅニツキ

ツキガ、ミ カゲガウゴク ツキノカゲガ ミヅデウゴク ○ダイ十四 カザ

グルマ カゼヂ、マ (十五)ニジガタツミエル ○ダイ十五

ポチヨコイ ポチハ (十六)テツビン ユラフカ コツプミヅラノ ○

ダイ十七(十七)カケモノ トコニカ (十八)一、二、三、四、五、

六、七、八ジ ○ダイ十八 モンノマヘニバンペ

イガ ハンラスル (十九)イクニンカイクタリ クシユー ○ダイ十

九 ミヅノマニマニメグルナリ ミヅニ、ハツ イテマハル ヤマズメ

グルモ ヤスマズ

卷之二

○たい一 (三)うし ウシハヒトノ イヘニカフ つよいうし チカラノツ ヨイウシ

たい二 タケノエ キのコ ハエル (三)いけにはし ハシケニ、

カケテ ○たい三 しろらら シロラ フウサギ (四) あんぢ あき

ドモノイコ ○たい四 かき カキハ、クリセ クリハ、ナ



し八つヤツ ナシハ、 (五)うらしまヒト かめのせカメノセ にナカニ ○

たい五 ひらひらカゼニテ、 ウゴクコト (六)きついウマニノツタ ルヘイタイ ○た

い六三サンびきのさるサアルガサン (七)みみミミヲ をふさぐテデオ

ルサへ ○たい七 おみやカミサマヲ、 もりキノタクサン、 (八)た

ばねてツクテ、 はこぶモツテ ○たい八 (九)よろひカラダヲ、 マモルモノ

○たい十 (十)あさひアサヒガ のぼりアサヒガ ましたデマシタ (十一)う

んどカラダヲ 一ホド ぼぬク、ウゴカスコト ○たい十一 たいそド 一 ぼぬ

がをルデアラウ れませうチカラガイ (十二)さかサカデモ、シ をものぼれンポーシテノ

レボ ○たい十二 ぼアチラコチ 一ラノイヘデ のうちラノイヘデ ちラノイヘデ とほり

がヒトノ 人ガ あそシヨ びませうシヨ (十三)むコ からコ に ○たい十

三 けキヨ ふはフ ままゴゼンヲ ごとハルマネ きキ 一チイサナ すドビン (十四)○

たい十四 上ウヘ からウヘ つるツリサゲ されてラレテ 下シタ に つい

てズニヲ ますリマス (十五)あメテ たメテ たメテ ためメテ て ○たい十五

(十六)きナ ゆキエ なナ 木キ にキ も おほオホキ ゆナユキ きキ こチイサ ゆナユキ きキ

○たい十六 うドモノ しあトキノ かコ まナ るナ たナ たナ かナ っナ てナ リ

シアヒ テ (十七)けケイ ンコ じコ のコ つコ すぐヒト れヨリ てヨリ 大オホ きキ く

まモ うウ しシ ○たい十七 おオモ ちチ ゃヤ みミ せセ (十八)ど

らんラン をヲ さサ いイ あるアル のノ はハ (十九)このコノ 中ナカ でデ ほホ しシ う







ませんからユキマセ ○第六川カハばたはユキマシやあしてツテ

左右ヒダリミギ（八）うちがイヘゆいたならユキマシまなばぬ人ヒト

はセヌヒトハよどみセヌヒトハくトスつとめはセイダげみてシテお

こたるなスナ ○第七かケナドニラルモノつるミゾイ次ツろイ

おますかスカリマ（五）石イシの上ウヘのロぼらうイをノのノとト

ふヒトーノナ居イますかサウデア上ノホつたリマスさイマよナクーナク

○第八にはニハトリハどりヒトノイヘニカハレテトキヲシラストトリデアリマス（十）多オホくのサク

ひノよコこリコトかマシへマシましたタ天テンきノでトとコやロ

赤アカいとタマニアルモノさアかア ○第九ウマ（十二）ウマトウシト

ウマハヒトヲセテ、ヨクハシルモノ、ウマ方ホコメダワラコメライレ牛ウシ

アユムクアルテハコバセルテユカシマスマ馬ウマ（十三）ナレテオソレ

ヨーヲタシマスニアヒマスマ父チラトツフダンニツチノーカヒヤ

クシヨーノイヘカタイオテイカホドチラカカウマカ、ウシ ○第十タウ

エイ子ノチイサキトキ、田タウエハコブモツテ（十三）オモイデ

セウカラオモイデゴザオ手ツダヒ苗イタダクマスク

ローヲシテニアヒメ米 ○第十一コ（十四）とーじゆせ

んせいガクシニ云ふ人九ノつトシコ手テ習ナらヒあきみなぞヨ

一ナコト習ナはレまシた本一イしんにホガノコロノくり



かへしてドツテ (十五)字十トチのときヲノトキ かはツてカハリ

手がみテ ○第十二時トキ おとツなタモノ 多オホくサク ある

ものワルイ ヤツガイ おしオホよゼイせイましたテ 少スコしもトモ おそ

れヒませマんでヒマセンカラ (十六)力カクナ かけマシたシしてマシテ

一ツきヨイのあるウヘニ上ウヘにツヨイ (十七)名ナだレかいモシ ○第十

三ツイケハケハ (十八)行ユきタ おタ玉マ 大オホきイ 小チさイくウマ 生ウマれイ (十九)い

タリツソコニアル (二十)キシ (二十一)シタへモ

○第十四キんギぎヨ (二十二)桃モモ太タ郎ロウ (二十三)大オホきイ 小チさイくウマ 生ウマれイ (二十四)い

まス少コしモ (二十五)何ナニかモ ○第十五モ桃モモ太タ郎ロウ (二十六)大オホきイ 小チさイくウマ 生ウマれイ (二十七)い

子コ名ナをつツけケカカ ○第十六ヒあるヒ日ヒきキびビだダんダんダ

のナ中ナカからナカ (十七)出デてデ (十八)おオとトしシのシものモノはハ (十九)何ナニ

てテあアりリまマすスかカ (二十)日ニッ本ポン (二十一)おオとトもモしシまマせセらラ

犬イヌ (二十二)まマもモなナくク (二十三)大オホぜゼい

かカかカつツてテ來キまマしシたタ (二十四)ひヒつツかカきキ (二十五)つツつツきキ

王オウ (二十六)さサしシだダしシてテ (二十七)○第十七チやヤじジろロべベえ

三

亦

五

日

一

二











さんの手テがかかりイロクますニカケマス ○第六ニのみ

やミヨ先生センセイ 子供コドモの時トキ 父母フボあかハチれシニワ 家イヘて

そだてられました オホキイシテ モラヒマシタ いちのあわらいワルイ あ

つかひシサハイ オモフク (五一) イッしんにツコイニ ニぬしづ

まる ネテシ マウタ 本ホをヨ讀まれました ウチむらのウチノ シブのノ ルトコロノ

あれちルステメンア シおこして グワイヨ シわづかの シノコ ひままで

もアヒダ デモ オこたらずにズニ ナマケ つとめられました セイラ

たんせいして コメテ イへをおこして イヘヲハシン イマ 今

はカミ 神 ○第七ニ カんがへもの ワカラヌコトヲカ マイニチ 毎日

おメにカりシテ アヒマ カたちがルモニミエ ア有る ア赤いもの

でク草カあいたのが日ニホシ コノウ ミ水シ私シ ナ何と

虫ムシいえくカ カ風カたカミデコシラヘテ カゼニ イ今イど

○第八ニ ヒ火カノヨージン 火ハ日々イリヨーモノデ アリマスケレドモ マスカラ ヨージン フセ子バナリマセス 大セツ 物 火ガ無イト 寒イアタ

、マルモク 大ヘンナコトニ コトニ 寺 立テテ

センコー ヒラツケテヨイ 屋根ノ上ニ 大風ガ吹イテ

トーくヒニ 大火ジ 何ト ○第九ニ 小川たい

ぞん 此ノ人ハ子供ノトキヨリ ガクモンヲ 雪ふりのあさテ ユキガフツ 笠



アタマニ、カブルカサ けいこ本ヲヨ とちミチノ 重ナカデ くとほりか

つた人ソコヲト いためてケテ、故ユエ 休ヤスミ にして(十四) 禮レイ

をのべオレイヲ ○第十 雪ユキ たるまユキニテ ○ダルマヲ コシラへテ、コトモガ、タノシミスル よ

り集アツマ つて まゆマユ 松マツ ばマツ (十五) 氷コホ り 向ムカ つてアサ日ノア ガルホーへ

光ヒカ つてシテ 手テ をもたぬ手ガ かけハシリ くらアシ 足アシ ○

第十一 手テ ノ指ユビ 手レバ ノユビニハソレノ ナノアルモノナ 名ナ (十六) 教チシ へ

マセウ 太フト クテ短ミゲカ イノハ 才チユウシ ヤ指ユビ 次ツギ ノハ人ヒト サシ

指ユビ 其ソノ 高タカ イノハ 中チユウシ 指ナカダカノ、ユ 小コ 指ユビ 五ゴ 本ホン 又マタ

役目ヤクメ (十七) 前マヘ ○第十二 しんぬんのあそび一月一日ニコ

ドモガ、イロくトシ 持モ っテ て 皆ミナ さんが 小チイ さく 見ミ えるの

は (天) あちらの方ホー 女メナ の子コ 姉アネ 私ワタクシ の妹イモウト 早ハヤ くず

んくセズニ 糸イト ○第十三 はなさかちカレキニ、ハナ

ナシナリ (十九) 一匹イツヒキ 白シロ い犬イヌ 畑ハタ に行ユ きましたら お金カネ

よくふかちヨクノフ 之コノ をうらやましがりウマイコト

ア、ト 其ソノ 犬イヌ 自ジ 分ブン 少スコ しも出デ ませんでチツトモ きたな

い物モノ (二十) 打ウ ちツ らうめて土ヲホリテ、ソ 思オモ ひ 白ウス 〇

第十四 借カ りて 立タ てないでシタテズ 其ソノ 灰ハイ (二十一) 花ハナ と

のさまヨイミ みごとを花ハナ 咲サ き とほホメラ 〇



ノヲモラ フコト ○第十五 太郎の犬太郎ガ犬ヲカフテ 家イヘ 付けツ (二十三)

尾ヲをふつて 夜ヨにニ 門カド むムやみにム ちチヤク (二十三) かり

に出デる時トキリリニニ ヲオクトクキキ リリこコーーカカシシ かけケまマはハつツてテ 鳥トリ

けものアシガシホンアツテ、カラ おオひヒ出デしシまマすス (サガシダスコト) ○

第十六 キゲンセツクジンムテンノサマガ 御祝オイハヒデ

(三十四) 昔神武天皇 天子ノ御クラ井ニ、オツキナ

サレタ天子ニナラ 目出メタイテ ワガクニ日本ノ ダイイ一イチダ

イメイチチバンバン 私ワドドモモモモワワタタクク 學校ガクノノ式シキ (三十五)

イサマシイイイノノアルアル セウセウウデデハハウウデデハハ ○第十七 花火ハナヒツツマ

リニハナヒヲ、ウチアゲルコトナリ 今日ケはハ 音オト 玉タマが上アりリ 東風ヒガシカゼ フクカゼ

(三十六) 西ニシの方ホ 東ヒガシだダのノ 後ウシロ 右ミギが南ミナミ 左ヒダリが北キタ ○

第十八 らラめメにニ らラぐグひヒすス 暖アタかカにニ

(三十七) 山ヤマの雪ユキもモ きキえエ まマーーすス 來キまマしシたタ 二ニ三サン日ニチ

前マ梅ウメ 咲サきはハじジめメまマしシたタ 鳴ナきキ 一ヒト羽ウ (三十六)

御存ゴじジてテ 笑ワらラふフもモ。おオのノがガまマ、カカツツテテ ○第十

九 ひヒなナかカざザりリ 様サマ 見ミにニ 御出ゴでデ

桃モモ 一ヒト枝エダ持モつツてテ 上アりリまマせセらラ (三十九) まマんン中ナカのノ たいタイ

りリ 様サマ 一ヒト番バン ひヒんンがガ よヨくク 五イ人ニンばバやしシ



オンガクラカ ナヅルヒト いきてをるよーで イキテラル 笛 フエ 大つゞみ オホキナ

ミツ キコ 聞える オモ 思はれます ○第二十一 三 白石先生 ハクセキセン

ハクセキトイフ人ハのチイサイトキカラ、 名高イ ナダカ 筆モツ フデ 三ツ ミ

ノ時 トキ ツノトキ 見事ニ 天下 テンカ 一書カレマシタ ソノ 其後 ノチ

讀 ヨ 三書キ ホンヲヨシタリ、 ハゲマレマシタ セイヲダサ 生レ ウマ

テケンジ ユツ ツケンラツ チヨセキ 朝夕 アサ 一生ケンメイニ イチカ

上手 ジヨウズ 三 シアヒ シンケン 夕チアツテ シヨブ 勝タレ カ

學 ガク モン ノヨミカキ 武ゲイ ケンジュツナド、イ

卷之五

○第一 ワガニツ 我日本國 ホシニ 多ク ナクサン 本州 ソノ 其西南 ソノ

九州 キョウシュウ 者共 モノ ございばつ ロボシ 三 三 おぼしめ ミ

され オオモヒ 御兄様 オアニサマ 引きつれ ヒ おす オイ 強ク ツヨク

おなくなりなされ マシナレ 此御方 コノオカタ 一 一

ト ト 第一 ダイイチ 代 ダイ 三 三 第二 ダイニ きんしくんし クダサルイチバン

向 ムカ 方 カタ 軍人 ケンジン 掛 カ けて居 イ る ル シ シ ナ ナ 軍 イクサ

丸 ダマ 雨 アメ の ノ ふ フ る ル よ ヨ 一 一 に ニ 御弓 オユミ 止 ト ま マ り リ は ハ げ ゲ し

ら ラ ハ ハ ス ス グ グ レ レ ダ ダ お オ 討 ウチ ち チ 四 シ と ト び ビ ノ ノ ナ ナ 御弓 オユミ 止 ト ま マ り リ は ハ げ ゲ し

く ク ヒ ヒ ヨ ヨ ク ク 光 ヒカ り リ お オ そ ソ れ レ た タ マ マ シ シ タ タ か カ た タ ど ド つ ツ て テ ニ ニ シ シ テ テ と ト り



あけ<sup>ベツダ</sup> 有<sup>ア</sup>た 下<sup>クダ</sup>さるゝ 之<sup>コレ</sup>を持<sup>モ</sup>つて

ほまれのこと<sup>人ガホメマ</sup> **○第三 春<sup>ハル</sup>の野<sup>ノ</sup>**

かりし冬<sup>フユ</sup>もすぎ<sup>ユモコエテ</sup>て なかご<sup>ン</sup>ろ **一<sup>イチ</sup>めん**

に<sup>イニ</sup> 青<sup>アヲ</sup>く見<sup>ミ</sup>え ところ<sup>コチラニ</sup> **すみれ、たん**

ぽゝ、れんげそ<sup>クサ</sup>ー **咲<sup>サ</sup>きそろへり**

ん<sup>ニツ子</sup> つみ草<sup>クサ</sup> **てんで<sup>ニ</sup> **(五)ひばり****

づづり<sup>コトリノナク</sup>て **雲<sup>クモ</sup>の上<sup>ウヘ</sup>まで** **目<sup>メ</sup>に見<sup>ミ</sup>え、耳<sup>ミミ</sup>に聞<sup>キ</sup>**

こゆる つれ<sup>ニナツテ</sup>たち<sup>テ</sup>て **遊<sup>アソ</sup>ぶ** **したしき<sup>ト</sup>と**

ナカノヨイ **お<sup>オ</sup>うて** **鳴<sup>ナ</sup>く鳥<sup>トリ</sup>を** **○第四 (六)らんぞー**

くあ<sup>コド</sup>い ま<sup>マツテ</sup>あ<sup>カラ</sup>たる **晴<sup>ハレ</sup>れ** **兒<sup>コ</sup>童<sup>ト</sup>**

り<sup>テハイ</sup> **した<sup>モド</sup>が<sup>サトコ</sup>ひ<sup>コ</sup>つ<sup>コ</sup>い** **足<sup>アシ</sup>な<sup>ミ</sup>そ<sup>ろ</sup>へ<sup>テ</sup>** **入<sup>イ</sup>り<sup>キタ</sup>來<sup>キ</sup>**

カラダノ、カ<sup>ア</sup>ル<sup>シロ</sup>イ **赤<sup>アカ</sup>、白<sup>シロ</sup>、青<sup>アヲ</sup>ま<sup>ケ</sup>け<sup>ズ</sup>お<sup>と</sup>ら<sup>ズ</sup>**

走<sup>ハシ</sup>り<sup>イ</sup>出<sup>イ</sup>で<sup>イ</sup>たり **い<sup>ガ</sup>さ<sup>ヨ</sup>ま<sup>シ</sup>** **勝<sup>カ</sup>つ** **青<sup>アヲ</sup>も<sup>マ</sup>く<sup>マ</sup>**

じ<sup>ヒト</sup>ア<sup>マ</sup>フ<sup>マ</sup>モ<sup>マ</sup> **一<sup>ヒト</sup>足<sup>アシ</sup>負<sup>マ</sup>く<sup>ル</sup>** **つ<sup>マ</sup>き<sup>ケ</sup>た<sup>ル</sup>ら<sup>ば</sup>**

々<sup>ヒト</sup>手<sup>テ</sup>を<sup>ケ</sup>打<sup>マ</sup>ち<sup>テ</sup>て **ほ<sup>ホ</sup>め<sup>メ</sup>は<sup>マ</sup>や<sup>セ</sup>り** **分<sup>ワ</sup>れ** **め<sup>メ</sup>ぐ<sup>ル</sup>**

ル<sup>マ</sup>ハ **あ<sup>ア</sup>な<sup>ナ</sup>げ<sup>ゲ</sup>** **よ<sup>ヨ</sup>き<sup>キ</sup>天<sup>テン</sup>き<sup>キ</sup>に<sup>ニ</sup>候<sup>コト</sup>**

ス<sup>イ</sup>マ **らん<sup>ラン</sup>ぞー** **致<sup>イ</sup>し<sup>シ</sup>候<sup>コト</sup>** **○第五 (八) 日<sup>ニ</sup>本<sup>ポ</sup>武<sup>ブ</sup>ノ尊<sup>ソノ</sup>**



景行天皇ケイコウテンノ十二トウ日ニ目メ 御時ミトキヨクまズどノ名ナノソムキ天子サマノ、オホセニ、シタガ

之ヲコレ討ウテト 御年ミトシ 其様子ソノヨリ子スヨクキリヲリヲマ待ツテ川

上カミたケる名人ノサカモリ 人ガヨリアツマツテサケヲノムコト内ウチニイ入レラレマシ

夕タイヘノウチヘ、(九)キヲユルシテ ユダンヲシマシタ酒サケニエヒタフ

レサケニヨウテ刀カタナヨニカニ 御三ミハ誰カイフ人デアルカ恐

レテヒテカキツカ 御名ミナノリアレト オナヲツケラレヨトイキタエマシタ

シニマシタシ ○第六茶チヤつみ ツミトルコト歌ウタ手テ元モト早ハヤいては

ありませんかシゴトヲスルコトガ、ハ (十)さとのをとめの

ムラサトノワカイヲンナノ アチコチニアツマツテヲルモノガ あやにとり モンノヨニカケテ

葉ハ ほいろガアリ、ヒノウヘニカケテムスモノ 毎日 もあひま

すマス(十二)物モノ 外ソノ國クニ 賣ウり出しウリマス 大切 しん

茶チヤありがたくあよーたい仕シり候 リガタウ、イタゞキマシタトイ

トコ ○第七 町マチと村とムラ マチトムラトノ、ヨースノ、山ヤマ田ダ村ムラ か

やぶきカヤトイフモノ 森モリ キノシゲリテ 見ミ晴ハらし トホキヲミ畑ハタ(十三)

みせ モノヲウ品シナ物モノ お米 ホン 本本 買カはれます 申マツし○

第ト八キヨ 東トウ京キヨウ 東京ハ天子サマノゴめいしよ ナダカイにしきる シキ

シタ 忍ニどき カイテアル (十三)宮キョウ城シヨウ 御ミ役ヤク所シヨ 處トコロ 都ミヤコ 天子サマノオ

トコロヲ 見ケン物ブツ (十四)十トチ日カ 上ウヘ野ノ、アサ浅クサ草サ お前 マヘ行ユく、ソノ其ソノ



時トキ十五枚ジューゴマイ ○第九クむぎかりムギカリ 麥ムギ きばみキバミ

てナツテ のキイロニーかヒヤクシヨ じせつト 麥刈ムギカリ 今年コトシ いつナツテ

にもニないコレマデ 出来デ (十五)みミのツてイツテ 去年キヨ子 まきマキ

付けマテテ 骨ホネをセりワラシ なタコトかつたらナうがアジウガ 刈カりデ

始めハジ 一羽イチ 足元アシモト 云イふ中ウチにルマニイヒヨ 高タカく上アガつてアガッテ

喜んでヨロブ (十六)さらツはれたカマヘテならゲラレルコト 感心カンシン 止ヤめメ

○第十ト ひばりヒバリのはクなしコトヲ 云イひ付ツけたりマシタ いイふイ

めタツテ 出イづる時トキ 云イひ付ツけたりマシタ いイふイ

よイヒマースルニ 先サきほどバタ 畑タ主ヌシ かハタケたれりシマシラ しシ

んセばいシにはシ及セばイぬイ 次ツギの日ヒ 歸カればハ 友トモ

たマシちラセつマシげシたりタ (十七)されルどサ 自ジ分ブンでカ刈カらカ

う人ラタノマズハナシ 話ハナシ へオいオきオナハントモ 我ワレ等ラもラ かコくコどロキメルル

連ツれサ 去サれりソノキマシタタ 恐オソるコゝオにキ足タらキぬコどハ 自ミ分ブンでカ刈カらカ

らンジブ 仕シ事ゴト 出イてキ來キてハ 自ジ分ブンでカ刈カらカ

コトオモ 思オモひヒてヒ かカしシこコくクもモ ○第十ト一イチ (十六)川カハ

のカはハなしシ 清キヨみミツツノイ 岩イハあアひヒ 此コあアたタりリココ

ンナツ夏ナツのコろロはハ 此コ處トにニ休ヤみミ 木キのハ葉ハのシ下タくク

ヅスリケトト 小コ石イシのウ上ヘ 進スみミまマすス 共トにニ 林ハヤシタタクク



サンアル (千九) 日夜ヨルモ 道はミチ 次第シダイ 魚イサ 彼等カレラ のノ ミツ

りよーがはホーノ 土手ドテ ツチヲタカクシテ、生ハ えて 水車スイシャ ばミツ グル

マノアル 皆集ミナアツマ つてロヘヨワテ 海ウミ ○第十二 水ミヅ オヨギオヨグ

コトヲ、ケイコスルハ、 (二十) マサカノ時トキ ヲトノアヤク 役ヤク ニモタチアマニ

心ココロ エテオクケイコヲ 大切タイセツ ナコト タメシテシケン 渡ワタ ラウ

勇氣ユウキ ヲシシカ ワザシカ スグ様サマ ニ ツゞイテ父ノアト オボレ

水ミヅ ニシ 時トキ ヲフリカヘリトキムキ 供トモ ツレテ心 配パイ ドウデアラウ

(二十) 舟フネ ヤスナニゴト くモナク コシ刀カタナ アタヘラレ

マシタマシタ 後ノチ 武ブ ゲイイノワザ 共トモ ニ勝スガ レタドチラモ人 ○

第十三 みなどミナトハ 登ノボ り・はて

なくトモミエヌ はるトホ かフネ 船フネ 水鳥ミヅトリ ろかぶミツ ぶト ート にテ ヲイ

陸地リクヂ に入りイ こみてリクチノホ 深フカ ければフカイ 煙ケムリ をケムリ

はけるジヨーキセンガ、セキセキ タンタン ヲ、 (二十) 人家ジンカ へヒトノ 行ユ きユ きユ きユ

荷物ニモツ の上ア げ下オロ しニモツヲ、リクリク チチ ニアニア ゲゲ 港ミナト おオ きキ の方ホ ノママ

指サ してシテ いイ づヅ こコ へヘ ドド ココ 客キヤク ノ人フネニ 外ホカ 海カイ 國クニ ヲヲ

最モト もモ 小コ さサ かんカン (二十) 大オホ いイ に喜ヨロコ びビ いイ ざザ ナナ

○第十四 船フネ 船フネ 子コ ニハ、ジジ ヲヲ キキ セセ ントト、ホホ ママ ヘヘ セセ ンン ゆユ げゲ のカカ ヲヲ

走シ るル 遠トホ きキ 處トコロ へヘ も行ユ くク をヲ うウ べベ しシ ヲヲ ココ トト ガガ デデ キキ ルル



帆を上げホハカゼヲフリムモノニテ、動かすウゴろキニテコシラヘ、フネヲウゴカヌドグ

三十四つくり方カクせんそイッ一サ丈夫シヨウブ丈夫タガそなへつサ

けシテ外ガツイコク國ヨソノかならずキツかんダイジよノ一コト大ホむか

しズツト丸マ木キをキくりテマルイキノナ世ヨのヒらクるニし

たガひヨノナカノ人ガ、チエ板をキみ合はせ（三十五）東京丸

の出帆シユツパン東京丸トイフ、正午シヨウゴに御座候ゴザフラフ候ヒルノ十二時朝日アサヒの

りクみ候アサヒトイフ、グンカ ○第十五 神功皇后ジンカゴウ向ムカハ

セ給タマヒテオイデナ軍ガンノヲハラヌ中ウチマヌウチオカクレ

オシニナサレタコト此コノ時トキ居イ給タマヒシニオラツシヤしらぎチヨーセンタタ

スクルカセイヨルナランソノワケコノクニシタカ此コノ國クニヲ従ヘナバギノ

ガハセナラバオノヅカラヒトリ平タガントアラウトオガシメ

シケルニヤオボシメサレタ永ナクデモ御國ミクニ日本ニニツギモ

ノヲ奉タマフルベシトソノクニニ、デキタル（三十六）こま、くたら

チヨウセンマツタ全クラズソムカザルニイタレリムホンヲ、オコカ

勇イマシキキシヨー武勇ブゲンキカ、ヤカシラセ此コノ御オン方カタ

ナリコノオカタ○第ジ十ジュウ六ロク蒙モウ古コ來ライタル蒙モウ古コハ○シナノキタノ方カタノ

ヲセメニクブらい名ナノ先ヅンニ（三サン七シチ）送リコシケリシオコ

タシ其ソノ手テ紙ガミノ無禮レイルコトガシツレイナルオヒカヘシケレバ



ツノマ、ソニヘ イカリテ ハラヲ 大軍 グンゼイ サシ向ケケ

リ オコ シタ ワガヘイ 日本ノイ ハゲシク ツヨク ヨワル色 ヨワル カ、

ル中 ウチ ニ ル ウチ ニ 大風吹キオコリテ オホカゼガ 敵船 アヒテ

アマタ タク クツガヘリ ヒツクリ 敵軍全クヤブレタリ

マル カズシレヌホ 石火矢 タヤスク進 ミエザリキ ヨイ

物 モノ トモセズ オモハズ 草野次郎 ニ ツキ入り

ハモノ ラサム 我手ナミ ツガタカヒ ヲドリコシ デ ハ イリ カラ ラ ソノ ト キ ミ チ

ンニク ダカレ ニコハレテ サシモ ドニモ 聞 コエシ ヒ ヨ バ ン

生 キテ カヘリシ カヘ ワツ カタ タ 三 人 ナ リ キ ト

云 フ サ ン ニ ン デ ア ツ 第 十 七 お も し ろ い く ふ ー オ モ シ ロ

蛙 手 ば な し ま し た ら 手 ラ ハ ナ シ 三 十 九 き み ー

にも フ シ ギ ふ し ぎ に 思 う て ワ ケ ガ ワ カ ラ ヌ 口 で 吹 き こ

が ぬ 虫 これ が 種 だ ゴ レ デ カ ヘ ル ガ ウ 笑 ひ 明 る 日 桶

面 白 い 工 夫 ガ ハ 鮒 の 尾 に あ づ か な が ら ス コ シ

御 目 に か け 候 ケ マ ス 見 事 キ ナ 第 十 八 井 上 で ん

女 キ ノ ウ ヘ デ ン ト イ フ 女 ガ ク ル メ ガ ス リ 何 事 に て モ ト デ モ 考 ふ れ

五卷

三十五

三十五



ばシタナラバいとけなきちイたちぬひスフコト手あざスル

シゴ好ミけりリマシタ三十二結ムスびほしけるに日ニホシ布ヌ

ンモまだらアルコトあらはれタデキ限リ無クツイおりあ

げしハタニオしもふりシモガフツタヨーあられ織アラレノフツタハ

なはたソー多かりきタクサンナコトなほウヘニ弟子モラフモ

ノ此地コノ久留米産物ソノ土地バカリ三十二ととき申さず候

マダコチラヘかすりの外ハあきなひ仕らず候カスリノホカ

セス致さずイタシマセス第十九考ヘ物私共ハワタシ大

阪生レ兄弟別レくくベツニキマツタ家コレガ自分ノ居

ラヌ處圓クイマル小サウ顔色一番キ色イロ白色

主人家ノア著物行ケバ來マス三十三過ギテニシテ

アラツヒスルコト働ク人ガ好キテ此様ニ何ダカ

ナンデアルカ第二十川島又兵衛此ノ人ハアキナヒニツイテハドノヨ

スデ商人ノアキナ商ひ上手ためまずラズへめぐりアルキマ

手本三十四或年江戸今ノ東京名高きタレモシツさしかト

りけりシタ道連れレニナツタヒトおのくくメイ重荷オモタ

ツせおひセナカニ阪道けはしくサカミチガしよちゆーナツ

チハンアツイたへがたくラレヌ一方ならざりきハナカツタ



しばしアヒダぬぐひヒキフなげきタメイキシテいッぞコレ百姓ヒヤクシヨ  
 ましであらうラウカ止めヤ若しモ大商人オホアキンド世の人ヨヒト  
 ものをカネマウケかくのどとくカヨ一ニ大商人オホアキンド世の人ヨヒト  
 鬼オニ又兵衛マタベエといはれり

卷之六

○第一ニ山林サンリン或老人アルロージン年々シヨリ一イチ  
 年シヨましニいイチチ子シんンなほナおオとトたタらラずズお年オトシ次ツギ  
 の如ゴトくクアルアルヨヨーーニニ三三ままかかぬぬ種タネカカ子子ババ植ウゑゑるるそそれれ故ユエ  
 大木オホキ代タイにはニ用ヨにニ立タつツ後ノチのためタメアアトトノ

六卷

しげる木ガタタサ泉イヅミももああいいてて水ミヅノノ泉イヅミトトココ氣キをを付ツけけてて其ソノ  
 様子ヨウジ三三待マちチ居イたりリママツツテテララ○第二ニ山ヤマびびここ山ヤマニニ行イテテ○  
 きナがガめメなナがガらラつツまマさサきキ上ウりリニニアアガガルル谷タニああひひ  
 誰タレだだ四四夫ソレよりヨリ追オひひかかくくれればばああるる口クチ  
 見ミつつかかりりままぜぜんん言イふふととほほりり教チへへたりり  
 ○第三ニ雁カリリトトイイフフ鳥トリノノウウママレレ○五ニ秋アキ風カゼ時ジ候コウ立タちチ去サるる

新編源氏物語







天下太平ミヨトナルコト ちよーてい天子サマ いつは

り申し上げけりアゲマシタ ふしんの事コト にワケガワカ 改めアラタ てツニ おほせ付ツ けさせ給タマ ひけ

し出イダ しセニナリ 改アラタ めてツニ おほせ付ツ けさせ給タマ ひけ

りオホセツケ 出イ て立タ たんとせし時トキ 得エセ しむる

よーデキル はからはシタナ 重オモ くとりたつべしオモキヤ

かなへずニスレバ ばデキヌヨ (王)いキミ きほひをしめしてホヒ

臣シン にして君キミ たらんことをケライデアツテ 追オ ひのけ

よ偽イツハ る者モノ 流ナガ しけりナガシ者ニシマシタ 追オ ひのけ

あらはれてテ 罪ツミ に行はれけりツミヒトト 第六新ニヒ

嘗ナメ 祭サイ 毎年毎年 アタラシイ米イネ ノデキタルイ 稲イネ トリ入イ レ米ヲカリトリ イ

ソガハシヨ 我等ワレ ノ食物シヨクモツ 代々ダイダイ アツクユキト

農事ノウジ 新穀シンコク (十二)奉タテマツ ラセ給タマ ヒオソナヘ 御自オンミヅカ

ヲモゴジシ キコシメシ給タマ フオアガリ 儀ギ 式シキ オゴソカ

ウケタマハルキイテラ 前日ゼンジツ 御身オンミ ヲキヨメ

給タマ ヒオカラダラ 御座ゴザ 供ソナ へアゲ 明ア ケ方カタ ノコト 御自オンミヅカ ラ

行オコナ ハセ給タマ フゴジシニ 穀物コクモツ 重オモン セラレタイセツ (十二)

かどごとドコノイヘノカドニモ となびくノハタガ ぬたかヒノマル なる

よ物ハタクサンニ のヨク さラサマリシコト まミ えてミエテ あア きのみのり







道々ミチ兵えいヘイ心得コ、ロ(五)相成候アヒナリ

丈夫ジヨウブにつとめ居り候トメテ○第九 雪ガツセ

一尺一面イツシヤクイチメン景色ケシキ勇太ユウダ軍次グンジニ

向ヒ休ヤスミテアルカラ雪合戦ユキカウセン二年級ニニシキ強ツヨクソ一ナ

ヤガテナモ南軍ナンケンノグン北軍ホクケンノグン丸タマ戦ノ用意タカヒ(十七)聲コエ

々クニヲミナコエヲいく千センナンゼおそるゝオソレなかれモヨイゾマ

ケ又氣キマケハ敵テキちんチンサノソナヘホドいかにホドレ破れぬことヤブ

のあるべきぞヤブレソ一ホ方ホラモ近チカヨツタラ

ツバヘヨイヒサマイフヤイナ雪丸ユキダマコツソリシレヌ後ウシロ不フ

意イヲ討ウタレオモハヌタチマチハヤ破ヤブレマシタマケ今イマ

度ドハ負マケマイトゲンヂユーニソナヘキビシクヨ一イツ

生シヨケンメイニガケニアト上アゲタアゲタニ勝カチドキ

○第十ハテビの勇氣ユウキハテビトイフ人ノ、イイまれな

るユシヤ勇者ユウシヤツヨイ人ツヨイ人ヒ妻子サイシを引ヒき連ツれツマヤクダラヨ

渡ワタりてテユイとどまり居ルけりシテマシタ或アル夜ヨ大雪オホユキ

何ナニれニよりテカラドコカイツビキガホトラシ一ヒ匹ツの大オホ虎トラ知シらぬマ間マにシヨ小コ兒ド

モ(十九)翌朝ヨグチヨアサアサノ我子ワカの見ミえミざるミにミ外ソト相違ソウイ

あるまじハナハナイ打ウち取トりウくれウんヤいキざトほリ



けりハラヲタテ尋タツねて目メをいからしキツイメとび掛ガ、ら

んメ左手ヒダリ舌シタ太刀タチさきするどくヨクキレル、カ皮カハを

はぎどりトラノカハ上タテマツりけるサシアゲ其ソノ勇名ユウメイかソノく

れなしタレモシ ○第十一 雨アメと雪ユキとフエノジコーニ○アメガフリ

キトナ氣候キ、イアツイ、サム寒サムくなれりサムクナ空ソラかソラきくもり

ソラガ、ベツタリシモリテ (三十一)みミぞれ雨ニユキノマ見ミるミくミル如何イカにし

てド降フるアタあタめカニらニるナればアタ水スイじスレバよニー

氣キ水ボルノムセノ冷ヒえてツメタクなナほマダツ冷ヒゆるフユ冬フユに至イタり

てコホ氷コホりテ寒カン國クニ屋ヤ根ネ年チン中ザエー (三十二)暑アツきデモゆイツゑツ

いとフふキラ草ソウ木モク實ミりクイはイしヤク雨アメ具ク

アマ近キン年チン (三十三)老ロー人ジンもマウ申シ居シ候コト候シ朝アサ日ヒのヒカリ光ヒカリもウシタ 雨アメ具ク

一イチ月ゲツ一イチ日ジツ年トシのアジメ始アサ朝アサ日ヒのヒカリ光ヒカリもウシタ 雨アメ具ク

くシウツク旗ハタいベツともニ年チン始シのレイ禮レイノシキ互タガヒにタガヒ お

祝イハヒ詞ゴのホべホてホシホマホウホにホこホやホかホなホりホ (三十四)方ホ拜ハイ

スベテノカミサマ太タイ平ヘイ (三十五)つツしシみミてテイ御ミ代ダイのヨさヨ

かカえエゴゴハハンンジジヨヨ一イチ國クニのクニ幸サイ (三十六)子コ供ドモ羽ハ子コ唱シヨウ歌カ何ナニ

れレもモくクたタめメしシとトてテをヲはハりリなナきキよヨのノイイフフココトトナナクク

ナガツツかカぞゾとトぞゾにニ家カ々タノノはハつツ日ヒ (三十七)あアきキらラけケくク



トコ(三十三)治まるみよの國ノシツ君がみかげにオアゲニた

ぐつつヘテあふぎ見ることタフト ○第十三 京キヨ

都トキョートノモヨ此ほどコノアオモシロ面白い話ハナシ此處ココ汽車キシャ著ツ

き下りて御代々ゴダイ御うつりミヤコヲ、オ御所ゴシヨ天子テノサマノ

町並マチナミラビヨトホ通つて(三十四)四條通シヨードホリ賀茂川カモガハ流れナガ

平安神宮ヘイアンジン清水社キヨミツヤシロ寺テラ東山ヒガシヤマ東西本願寺トウサイホンガンジ

北野キタノ此外コノホカ名高い處ナダカトコロ賀茂カモの社ヤシロ名所メイシヨ高雄タカチ

織物オリモノ(三五)にしぢん織オリニシヂントイフトイフ清水キヨミツ焼ヤキセトモセトモ買カら

て來たキ羽織ハオリ御老人ゴロジン様サマ御歸りオカヘの由ヨシにうけたま

はり候サフラフオカベリナサレタウラヤマシイコうらやましく存じ候ツラヤマシイコ

○第十四 大阪オホサカ國セツツノ一時間イチジカン半もハン著ツき様子ヨリス違チガ

ひ近所キンシヨトカイトカイえんとつエントツ吐ハき出ダす煙ケムリテラルケムリ好ヨ

い天氣テンキ(三十六)製造所セイゾウシヨヘルトコシラ金銀キンギンくわへいクワイ

造るツク汽船キセンが集アツマつて荷物ニモツの出ダし入れイ此上コノウヘな

くべんりカッテでヨロシイシヨバ商賣シヨバさかんヨハン日本ニッポン第一ダイイチこ

とにテ目立メダつク人ヒトノ目メニヨシロ城シロ心ココロをこめて十分ニ心つきヲ入レテ

當りアタのシヨ一ニ三サン間ゲン(三十七)誠マコトに兵隊ヘイダイ四天王寺シテンノウジ中ナカ

の島シマたえませアキレルせんコトハ土産ミヤゲ皆ミナイ今イマまで話ハナした



寫し ○第十五 郵便、電信ノベントデンシント 友七た

ん物<sup>モノ</sup>仕入<sup>シイ</sup>れんため<sup>シ</sup>カヒコミヲ 手紙<sup>テガミ</sup> 船中<sup>センチュウ</sup>無事<sup>ムジ</sup>ナカ

ナニゴト 今夕<sup>コンユフ</sup> 著<sup>ツ</sup>き候間<sup>サツラフアヒダ</sup>シタデ 過<sup>ス</sup>ぎて<sup>テ</sup>コエ 弟<sup>オトワト</sup>の金次<sup>キンジ</sup>(二十六)

尋<sup>タツ</sup>ぬるをり<sup>ヨ</sup>ドソノトキ 門口<sup>カドグチ</sup> 示<sup>シ</sup>シテ 朝<sup>アサ</sup> 乘<sup>ノ</sup>つて<sup>ヒ</sup>

きやくや<sup>テガミハ</sup>ノニテ、ソノモツテユク人ヲイフ 頼<sup>タノ</sup>んだ 便利<sup>ベンリ</sup>ヨロシイ 此<sup>コノ</sup>

地<sup>チ</sup>トコロヲイフ (二十九) ○第十六 汽車、汽船<sup>キシヤト、キセン</sup>ノベントナコト 兄<sup>ニイ</sup>

さん 此程<sup>コノホド</sup>とち<sup>ノ</sup>ー 港<sup>ミナト</sup>マ子<sup>コ</sup>ノツ 黒<sup>クロ</sup>い煙<sup>ケムリ</sup> 出帆<sup>シユツパン</sup>の用<sup>ヨ</sup>

意<sup>イ</sup>ルフ子<sup>コ</sup>ノデ 乘<sup>ノ</sup>りこみ<sup>ル</sup>コト 汽笛<sup>キテキ</sup>の音<sup>ネ</sup>エノオト 鳴<sup>ナ</sup>り渡<sup>ワ</sup>り

間<sup>マ</sup>もなく<sup>ニ</sup>スグ 波<sup>ナミ</sup>をき<sup>ッ</sup>て<sup>シ</sup>ナミヲオ 走<sup>ハシ</sup>り出<sup>デ</sup>ました 次<sup>ジ</sup>

第<sup>ダイ</sup>に<sup>ン</sup>ダ 沖<sup>チ</sup>の方<sup>ホ</sup> (三十一) 白帆<sup>シラホ</sup>フ子<sup>コ</sup>ノホ 見<sup>ミ</sup>えか<sup>ク</sup>れ<sup>カ</sup>ミエタリ

用事<sup>ヨウジ</sup>も終<sup>マ</sup>り<sup>モ</sup>スミ かけ<sup>ケ</sup>つけ<sup>テ</sup>ハシツ 飛<sup>ト</sup>ぶよ<sup>ー</sup>に 電<sup>デン</sup>

信柱<sup>シンバシラ</sup> かぞ<sup>ヘ</sup>へ<sup>サ</sup>きれぬ程<sup>ホド</sup>ガデキヌホド て<sup>ッ</sup>きよ<sup>ー</sup>に<sup>ハ</sup>シ

さしか<sup>カ</sup>つたら<sup>タ</sup>キマシ 音<sup>ネ</sup> 暗<sup>クラ</sup>くて 夜<sup>ヨル</sup>かと思<sup>カ</sup>はれ

(三十二) 今朝<sup>コンチヨウ</sup> 出立<sup>シユツタチ</sup>致<sup>ス</sup>べ<sup>ク</sup>シマスル 今夕<sup>コンセキカヘ</sup> 歸<sup>カ</sup>る<sup>ハ</sup>ず<sup>ニ</sup>

これ<sup>コ</sup>れ<sup>レ</sup>あり候<sup>サツラフ</sup> 製造場<sup>セイゾウバ</sup>ヘルバシヨ 第<sup>ダイ</sup>十七 石炭<sup>セキタン</sup> 石油<sup>セキユ</sup>ヤセキエ

ノコトヲシルス 製造場<sup>セイゾウバ</sup>ヘルバシヨ 夕<sup>ユフ</sup>キ物<sup>モノ</sup>ニ用<sup>モ</sup>フル<sup>ル</sup>ニツカフ 實<sup>ジツ</sup>

ハ<sup>ハ</sup>マ<sup>ン</sup>フルキ時代<sup>ジダイ</sup>ノヨ<sup>ニ</sup> 地中<sup>チチュウ</sup>ニウツモレテ<sup>ニ</sup>ツチノナカ

出来<sup>デ</sup>廣<sup>ヒロ</sup>クオビタ<sup>シ</sup>ク<sup>ク</sup>ナカ<sup>ク</sup>ニテ 用<sup>モ</sup>ヒ高<sup>タカ</sup>ツカフ 日<sup>ヒ</sup>ニ



マシ日々ニムシヤキ燒コレ是モ三三汲ク三ト取りトサラニマタベツニ

製セイシテコシラ燈火トクワリアカチヨーホーノモノカッテノ極キハメテク

モエヤスキヤスイアヤマチジクオコシコトコトデキタ

少カラズオホイコ氣ヲ付ケテト取り扱フベシツカフヨ

其出方デマス多カラザレバスクナ年々トシハナハダイ

○第十八 老人のおそトシヨリガ、コドモニ、むつ

ましくナカヨ遊アツび居ホたる三三千人セニンばかりン料理リヨ

喜ヨロコぶことカギ限りヨロコビなくユフ夕方カタ待マちか

ぬデキヌホドガ、飯メシ汁シル小魚シヨイギヨこーの物モノ顔カホ見ミ合アハ

せカホトカホトハセにコくシながらヲワラヒガホ此飯コノメシ釜カマ御オン

身等オマヘ農夫ノイフ知シるナらんシツテ白ウス鍋ナベ

品シナを造ツクりしテツ鐵テツたきどコりしタキモノラカ數カへなばヘテ

數スヒヤクニ百人ニ着サカナりリしル船フネに乗りノ捕トり

しカ下カらざらんトハナイ夕飯ユフメシ手數テカズなるホド程ホドと感心カンシン

夕飯ユフメシさアゲしサ上サたフくフ候間サフ御出待オイデちマ入イりサ候フ

○第十九三三はムスメやハなりヤのノ娘ムスメ

學問ガクモンにスぐレたガクるク罪ツミをウ受ケてツミ

遠トホきクニ國クニにナ流ナさナるヘ都ミヤコをタ立タちイ出イてイしイ如イ



何にもしてシテ 共にトモ 連れ行かれんツレテイテ、願子ガ

ひしかどもネガヒマシ ゆるされざりきクダサレズ かなし

みにたへずカナシウテ、ひそかにリト 役人見とがめヤクニン

られければシツケラレテ、晝野山ヒルノヤマ あゆみてイテ 追ひオ

行きけりオハヘテ 日數重ねてヒカズカサ 迄マデ (三六) 重き病オモ

にかゝりしゆゑオモヒビヨキ あつてイニ かいほワセ

其かひなくシツナシ なくなりければシニマシ 悲しカナ

みはらむりけりシマシタ はなれがたくてクウテ 墓ハカ

小屋を造りチイサイ あづかにトヤツ とむらひホトケラ 罪ツミ

を許されユル 位をもおくられモオク たとふるにも

のなくクラベテ なきがらシニタル せおひてセナニ はる

ばるトコロ 手あつくテイネ 改めはらむりアラタ 子とコ

してレバ 親オヤ たぐひまれなるホカニタグヒ 孝女コウメ

○第二十 菅原道真公スガハラミチザネ ニゴトニモ、スグレテ、ヲリシコトヲシルス

(三七) 天神様テンジンサマ あがめらるゝタフトビ、ウヤマハレル ひいでレテ そ

ば近くチカ 梅の花ウメハナ の白く咲き出でイ 月の光ツキヒカリ の照テ

りそひてウメノハナ シロイノニ、ツキナガ ながめケシ 景色ケシキ 御身オンミ

の思オモ ふままオマヘ 詩シ 言はれイ 直タマ にニ 武ブ (三八)



げいノイクサヲ達せられきラレマシタ日頃ヒゴロ才學サイガクキトガクモン  
 ねたみオモフしからじサウデナイせまりきツタメヨおく  
 せずヒキヨク弓矢ユミヤをとりてヲモツテ射けるイにいく矢ヤ  
 ともなくカズオホク皆的ミナマトにあたりければヒトヤモ、ハツレ  
 デノ

### 卷之七

○第一 (二) 日本國ニッポンコク能く島々シマ々氣キ

候コおたやかアマリ、サムクモ、アツク生糸キイトぬり物モノ

産物サンブツ一家族イツカツクニラルミウチ

住んでシテ國クニがらのよいキクニノデ今上天皇キンジヨウテンノノ天

人民ジンミンめぐませられカハイガ君臣クンシンの間アヒダからキミトケ

丁度チヨウド親子オヤコ武勇ブユウかどやかヒカ度々タビタビ

しからばラバ地圖チヅを開きヒラ北海道ホクカイド四國シコク

清國シンコクりよブン分シハイ國クニ柄ガラ生れウマ幸サイハヒデ

○第二 國旗コクキ東ヒガシの空ソラ仰アフがさるアハはな

かるべしウヤマヒ、タフト旗ハタ寫ウツし出イたせるカイタ目メさま

祝日シユクジツ祭日サイジツ四シかカぐるニアゲルひ

るがヒラへすサセル世界セカイ定めサダめ形カタチゑがきカイ星ホシお







いとけなき時トキよりチイサイ文武ブンブブゲイトツ子（八常ツ子にン正ダイ

しトキく時サダを定チヤントトめキラキメ心ココロさあやかコ、ロモなるチノヨイ朝アサの

間アヒダ修身シユーシンメルミヲヲサコト歴史レキシ國クニノウツリカハツテ書物シヨモツさまイロくイロ

夫ソレより後ノチ弓馬キユウバウマユミくれ方カタに至イタればニナレバ心ココロをな

ぐキヲハさめラシぬタツサンきがナカカラきオボヘテオ夜ヨふけニに

及オキばれナリマスルけりソノ其他シヨクジ食モノヲ事カたはハらに

ソバニかくニシテてコ公シヨウケン將軍ダイミヨノカシラソ召サされてサレテ重カモき

役ヤクノヤクメ正タマしイきマせイいちイマツリゴト（九ク飲クみク食クひクつク）

しみケケテキラツ運動ウンドウおラマケこたラられレズずトシ年シ老カいたタるトシ

ルリ枚マイ瓦カハ運ハびコ元モトの處トコロへ持モちかハへしミツ自ジからンジニ

植ウ木キ益マス健スツコヨクク長チ生ヨイセナガほメたトへラれレシラレレ○

第五キ汽キ車シヤのタビキトコロヘユクコトト國クニ内ニ有ユ名メイノチ地

ナダカイトコロオモヒ思オモヒダ立タチダシテ先マヅイチバタグヒナククラベルモ（十）

大ダイ都ト會クワイハンジヨーツイデヒキツニ日ニッ本ポン三サン景ケイ日ニッ本ポン中チュウニニ三サンツタカキ

岡チカ見ミ渡ワタセバミレバニシシゲリエダガサカシラホ白シ帆ホ子シノホ其ソノ

間アヒダヲユ往ユキキ來キシテイハンカ方カタナクイヒヨー去サリテイテテノ

過スギトホアチモリコ青アヲ森モ港コ津ツ輕ガ富フ士シノガルトイフトコ進スミシニムカ

レユキタアユ步アミテアル秋アキ田タ（十）新ニヒ瀉ガニニアリ海カイ上ジヨウウミノ達タツス



ユキツク **金澤** カナザハ カガノ 便リ ベン 長野 シナノ クニ 善光寺 センコージ マウデマイ 淺 アサ

間山 シナノ、ハク ○第六雲ニソビユル イテタカイ 仰ギナ アフ

ガラウヘムイテ 静岡 ノクニ 大井川 鐵橋 拜シテ オガ (十二)

山田 ノ名 大神宮 ハコレナリ 八景 ケシキ 天ノ橋立 道遠ケ

レバ 一谷ノ古跡 タ、カヒシトコロ 岡山 ノクニ 廣島 ヘダ

テ、 ナカニ 松山 クニ 風景 ケシキ 岩國 ニニアリ (十三) 佐賀 ノクニ

イトマヒ 引キ返シタリ アトヘモド ○第七 一ノ谷ノ

合戦 ヨシツ子ガヒヨドリゴエヲ、コエ すぐ海で カイコト 後に けは

しい デキニクイコト まもる フセグ 平家 大軍 タクサンノ 攻め

上らう 源氏の大將 引き連れ 敵(十四)日は暮れ

出来ぬ かりうと山ニヲトル人 案内を言ひ付け ミチビキ

鹿は如何にシカハコエル 答へました マシタ 四足 アジノ 越

せぬ コエラ 直に むちあて ヲウチテ 見下し 山ノウヘカラシ

(十五) 試に シタメ くらおき馬 ノリクダダケ 追ひ下し 無事ニ

ゴトモ 下知し イヒツケ 三千騎 バムシヤ 軍勢 ニクサさん

に オモフ 打ち破り ○第八 著物の話 少女メムス 木か

げ キノカ 絹帯 此時 其袖に止まれる ツテアル (十六) い

けません アリマセン、ぬけがら ヲト 何と答へませうか



ドーヘントーしかるにアルニしかしサウデアリ 何處イツコアル或少女シヨージヨ

マタヒトリ 毛ケを染めて織オリつた(七)しつゝガシナ 樂タノしく

ヨク、ロ 只今品切れにて求め難ガタク候サフラフ 候タイマハ○シナモノガキレ

ゴザイマス 御仕立物ガシヲヌフコト 明日迄ミヨマデ 間マに合アひ兼カね

候サフラフマセヌ 用事ヨ之あり候間サフラフヨリマスカラ 近日キンゴロ 御出願オンひ

上げ候サフラフ 候オイデクダサルヨ ○第九 農家ノカノイヘノモ 見渡ミす

限カりクダケ 小森モリノハエシゲリテ、スコ 小山コ山ヤマイヤ

マ家根ヤの見ミゆる かけひに受ウけて 水車スイ水シヤクルマ 雞ニ刈ハりたる(天)都ミヤに住スめる人ヒト 氣キも

晴ハれ 手足テ のびく 農夫ノシヨク 骨ホネをりあざ

をホシゴトラレ 苦クルしともせず 働ハき いこひ 湯ユを飲ノ

み 一ヒトしほならん 朝アサ早く 庭ニハの木キにさへ

づる 通カヨふ 待マてよ (十九)走ハシり來キタる友トモ 招マき

キシテ 連ツれ立タちて 樂タノしき 成長セイチヨ 國民コク民ミン

○第十 伊藤小左衛門イトコザエモン 手テ柄ガラ 農工商ノ業ゴ

工業、商 賣リナリ 利益リ益エキをはかる つくす ことな

らず 伊勢イセ 製茶セイ茶チャ 二反步ニ反タン步ブ (三十)種タ種コ之レ

をテ手ハジメ始コトリハジメ 追オひ追オひ 茶畑チャを廣ヒロめ すゝめ







たるにモツテ少しもツチ常フダ箸ハシをとればミレバ云イふは

かりなしヘヌホド口クチをクろへオナジあヨんニばイいカよカきゲ

料理リョリかナリマスルワイこハはイ如カ何カなるウコレハド答コトふる

様ヨヘントシ別ベツにヤト雇ヒひスきハらツハラガヘ味アザ此コノ後ノ仕シ

方カタ御ゴ存ゾじンのヨシ由シツテライ御オン教ナシへク下ダさルまジくヤラシ

草コトサケトタバコトハ人ノカラダニヨ (三十四) 神カミ様サマにソ供ナへヒロ

酒セイ清シユマゼモノ、加クハへテイニツシヨ 近チカ頃ゴロ 此コノ外ホカ家カ業ギヨヲガ怠コダリ

故ユエナクラワケガ争アラソヒイヒ凡オヨソトザツ (三十五) 長ナガ崎サキ 植ウエ

夕ツレ夫ツカラ何ド處コデモ作ツクリマス 卷マキ煙タバコ草コ 其ソノ葉ハ製セイ

シツタツク 害ガイニナルモノカラダノタメ 年トシ若ワカ 大オオ害ガイルイコト 法ホウ

ナヒマスコトニベツダ 年トシ若ワカ 大オオ害ガイルイコト 法ホウ

律リツオキ腹ハラノクスリワザハヒニアヒ 幼ヨウ年ネンイトシ 心ココロ掛カケ

ルオキテノサダ ナラハシセク 永ナガクデモ 幼ヨウ年ネンイトシ 心ココロ掛カケ

○第十三 (三十六) 海カイ岸ガンヨウミバタノケシキ、日ニチ曜ヨウとモなハれ

夏ナツ暑アツさハげシくアツサイ 步ホ行コウコト 程ホドなクキチカ 濱ハマ

邊ベバウミ 波ナミ海ウミ風カゼ 心ココロ地チ好ヨきコトとイ言イはん方カタなしイヒヨイ

親オヤ子コ砂スナ海カイ上ジョウ (三十七) 魚ウサ數カズ知シれズ手テをウ打ツち



て田タの如ゴトき田タノヨヨ大オホびしやくオホキナ砂スナ場バそゞぎヒシヤク

テカケ問トへば鹽シホ入イリ江エ川ニテ海ノ水ノさししほシホガハイひヒシヤク

さしほハイツタシホみちひヒイタリ○第十四タイワン(三十八)臺灣タイワン

タイワンハ○モトシナノクニノ、リヨーチデアリ然ルニソウデアラハレ

キタ新高山ニヒタカヤマホマシマシ日清戦争ニツシンセンソウ日本トシナワタ渡リテユイワ

ガマ、ヲ働ハタラキケレバランボーナコ濱田彌兵衛父子ハマダヤヘフシ

(三十九)其頭ソノカシラ故ユエアリテワケガ我兵ワガヘイ日本ノへセイバン生蕃ヤパン地勢チセイ

トチノナ田畑開ケテデンハタヒラ田ヤハタケ人口シンゴ臺北グアイホク臺南グアイナン良キ

港淡水港ミナトタンスイ有名ユウメイ熱ケレバアツ取入トリイル砂糖サトウ名産メイサン

ンブツ重ナリ合ヒテカサ土人ドジン此ノシマニウ此ノシマニウ體タイ布ヌ戰タカヒヲ好コナ

ニウチアヒゼント(三)全島シマヂ次第シダイ第二ニダン開ケ行カントス

ヒラケカチヨ○第十五チヨ朝鮮ト支那トシナハルカニトホモツト最

モイチナ名古屋ナゴヤ市中シチュウ(三)三十倍サイ貿易場ホーエキ神功シンクウ

皇后クウゴウ打チ從ウチヘラレシタガ手向テムカヒテムカイタクヒド属國ソクコク

シタガヒドクリツ獨立ドクリツズ、ヒトリダチスルコトソノツツ其實ナカリシニ名バカリニテ、

ツガマツタ(三)全クマツタデマツタ國號コクゴウ昔ムカシ藝術盛ゲイジュツニシテイロザザ

ハンジョツタ傳ツタヘタリシカドヲシヘニキマフルキヲ守リテムカ

シカタバカシ事物モノ國勢コクセイ更ニ進スマズナリマセヌカ



ヘリテラウラハ ○第十六 平壤の戦

戦ふ度に 勝利を得て ほまれ

き 勇み立たしむるなり

て 大岡江ノ名 ひかへ

ツテ (三三三)力を合せ 攻め落さんと 正面

大島少將 野津中將 立見少將 佐藤大佐 力を

つくして 防ぎ 入りかたければ

かゞはせんと ためらいたり 三村中尉

雨あられと アメヤ、アラ ことゝもせず

上れば トリツイテ われおとらじと 門外ソト 此

勢 あたりかねトデキズ 萬歳をととなへ奉り 城上

にひるがへしたり シロノウヘニタテテ、 ○第十七 重なる

る 金属類 澤山 鐵銅 誰

ても (三五)間違て 日用の器物 スルドーグモノ 鐵砲 決

して 時代 もつとも 赤く 堅く 便利

電話 まさせませます (三六)黄色 種々の器具

ノドグ 各國 貨幣 色々の細工 次いで

○第十八 空氣 人ノ目ニエヌモノデアリマス ケレドモ、コレガナ







ハイタアト 拾ひ集め 毎に つくろひて 貯へ置き

けり 兼てマヘ 積み 心掛 こひ 落ちとほれたる

あり積りて山と成る 元手 大問屋 此度

炭屋開店仕り候間 多少にかはらず

御用仰せ付け下されたく候

○第一 (三) 秋の景色 青葉茂れ

る 涼しき あせをはらひし 夏の暑

さ 吹き渡りて 朝夕 是れは 冷かに

庭 菊の花 萩 (三) さまごまに 咲きみだれて

らさるゝさま 黄ばみ渡り 重たげに穂をた

れて 波うつさま 鳴子の音に おどろ

かされて 散る いとゞ 豆、粟 最早

七十九







テ此處ノ島、彼處ノ山、長キ船路、遠州ナ

ダトホクノウミノ程ナク、歸リ著ケリ。○第四(八)

楠公ユキマサシゲノ、チ後醍醐天皇ノ天子、高時、そむき

ムホンヲ兵を都に上し、かば、京さけて、幸

し給ひき、召し給ひき、世を安んぜよ

命の有らん限り、大君につくし奉らん

御受けして、退きけり

小勢、ならひて、おこる者

亡ぼしけり、足利、命じて、出

陣ニテ、櫻井驛、たまはりし、授けて

請へり、あつ、後々ノ事、さとし

ければ、別れ、目にあまる、軍勢ニ、討

死、かくどして、終、弟、さし違へ

源光圀、其墓、湊川神社、○第五、楠正行

母子、思ひやりて、首も

かはり、はてたる様、悲にむね

ふさがり、居た、まらず、流る

涙に袖おし、あて、あやしみて、形見に







タル タイ 太古 オホム 木の葉 ハ 盛つた モ 膳 セン 椀 ワン 皿 サラ 茶碗 チャワン 陶 ト

土 ド ヤキモノ ニ 細かに コマ こねて テ 水 ミヅ 瓶 ビン 夫々の形 カタチ (十五)

すやき エナドノナ 画 エ 漆 ウルシ まきゑ ル (十六) 粉 コ

ニシ マコト 誠 マコト に ニ ちんちよ チンチヨ 一 イチ 来客 ライキヤク 十人 ジュニニン 前 マヘ

拜借 ハイシヤク 仕りたく願ひ シガ 上げ候 ア 〇第八 ハチ 爪生 ツメナシ

岩女 イハジメ 岩女ノ心 イハメノココロ 夫 ツツ 死 シ に別れ ワカ 悲 カナシ

のあまり タマラズ 又思ふ マタオモフ よ一 イチ 不幸 フコウ か

る カヨ すく ス 世 ヨ を捨つる ス に ニ まさる ス べし ベシ

心 ココロ をとり ト なほ ナホ したり シ たり タリ 儉約 ケンヤク を行 カ ひ ヒ

ヨ ニ シ シ み ミ な ナ し シ ど ド ナ ナ イ イ 子 コ (十七) す ス たり タリ 物 モノ 用 モチ ふ フ べき ギ

工 ク 夫 フ 餡 アン の餅 モチ 金品 キンピン 其志 ソノココロ を助 タ け ケ

カラ ラ 養育院 ヨウイクイン 招 マ かれ カレ 世話 セワ 掛 ケ の長 チヨウ

カ カ シ シ ラ ラ 勉 ツツ め メ し シ か カ ど ド も モ 國元 クニモト し シ き キ り リ に ニ

タ タ ビ ビ 歸 カヘ ら ラ ん ン こ コ と ト を ヲ 求 モト め メ し シ か カ ば バ や ヤ が ガ て テ マ マ モ モ 一 イチ

そ ソ 一 イチ 慈 ジ 善 セン 人 ジン ラ ラ メ メ 子守 コモリ 學 ガク 校 コウ (十八) つ ツ く ク す ス べ ベ き キ 手 テ 立 ダテ

國 クニ ノ ノ タ タ メ メ ニ ニ 雪 ユキ 路 ヂ 數 ス 万 マン 足 ソク 官 クワン に ニ 差 サ し シ 上 ウ げ ゲ け ケ り リ 〇 オ

ゲ ゲ マ マ シ シ タ タ 病 ヤマヒ 重 オモカ り リ し シ 時 トキ か カ し シ こ コ く ク も モ 皇 クワン 后 ゴウ 陛 ヘイ 下 カ 〇 オ

第 ダイ 九 ク 感 カン ず ズ へ ヘ ぎ ギ 行 カク ス ス ル ル シ シ カ カ タ タ 苦 ク シ シ ク ク ル ル (十九) め メ ざ ザ ま マ し シ かり カリ



人ノ目ガサキンセン金錢マツチカ松岡五平ゴヘイ丈夫ジョウブほろきれモメンナドノ日ニチ

夜働ヤハタラきヨルヒル西村喜一郎ニシムラキイチロウ僅ワヅカにタツ兼カチてマヘカ祖母ソボ

兵士ヘイシタイヒトト一通りヒトトならぬナカクベツ平生ヘイゼイ其高ソノタカ金銭カネ

贈りたしオクせめてケデモはシブン自分ジブン賃仕事チンシゴトノシゴト得エ

たるレタル岩橋イハハシ兒童シド品行正ヒンキョウしくガキョク學業ガクギョウノガクモ

寫ウツしシメ示されラウツシテければラレタノ大オホにカン感じタインツシカ如イ

何カにもシテしてドウゾ教師キョウシ取次トリツギテソノ人ヨリダシシ頼タノみケリ

といふタノ身命シンメイを忘ワスれワガカラダヤ、イノ御國ミクニ日本ニッポンノホン本ホン

○第十 (三十二) 威海衛ノ戰イカイエイイカイエイトイフトコロニ、オイト日清戦争ノアリシコト

勇イサマシキキイホヒ劣ヤラヌヌマケテ手柄テハタラキオチイリシシロ

翌ヨク日シツノアケコーカイオキ黄コウ海カイ沖オキノチヨウセゲンチエーキビ材ザイ木モクスル木フ太フト

結ムスビカン軍艦クワンカン防フセギメル敵艦テキカンノキノグ打ウチシツ沈シツムメイ命メイ

防材ホーザイラフセグザイノハイルナラ並ナラビチ居チルニ三十三ニカナハハジシ

トコトカタミノ品シナワスレヌヨーニアタラ新アタラシキ軍服クワンブク著ツクテキヤ暗ヤミ

ニマギレテカクラヤミニニサトリシリタイ大砲ダイホウ小銃シヨウジュウ我艇ワガテイ本ホン

ヨセツケザリキセンバハヨ武ブ勇ユウイクサニオクセズソオ

六ロク號ゴウ目メガケテメサダ遂ツヒニト海カイ底テイソウミノ手テ強ツヨククラハタ

敵兵テキヘイ是迄コレマデコレドウスル殘ノレル兵ヘイ器キカフドーググ



○第十一年の暮トシノシマヒ、夜晝ヨルヒル過ぎス行きてトホリ

しばらくトキ止まる時トキなくキガナムト春去りハルノシコロ

夏過ぎナツス秋往アキユきアキハ倉クラをさめシマヒ來春ライシユンノライネン

種子シユシ用意ヨイイ新年シンシユンイトシアタラシとトのノへんがためカウトテ

市イチに出るイッ引ヒきも切キらずテアル商家シヨウカスルアキナヒへコレラ此等

のバイ賣買カウリ年末ネンマツトシノ計算等ケイサン一ナド終ナへシテ成ナしト

ぐるマフ三十四年トシの始ハジメにシメニ爲ナさんとシヨ怠オコタリ種シユ

々の妨サマタゲイロクはか取ドらずデキヌ其半ソノナカばをオモフもンブン

かへりみてコレマデノコト空ムナしく暮クらせりチニモセズニ思オモ

ひ合アハせテ徒イタツラにヌコトニ月日ツキヒの早ハヤきをカナ悲カしみミうら

むツキツキヒガ、ハヤクタツコトタノシ樂タノシしくセン先生セイの教チシ勉強ベンキョウ學力ガク進カク

みカクカラモアガリヒン品行コウも修チサまりモヨクかつウソノ身シ體タイダカラ昨サク年シユン

キヨまさシしくカタシ進シン歩ポムカハ加カへタルコトフエタ送オクりシテ更サラ

にメテ迎ムカへニ三キン五フ昨日ケフと暮クラし今日ケフと過スぎベにモ

言イひけりマコトニ人待ヒトマたずテふ言コトの葉ハはトイフコト

ハコあな心コ地チよキきマア今日ケフしもコトとズすケフマデモシ

トコ明アけタなん年トシのアケマシ打ウちア合アせツハセナガラアあギ

りコつシナガラク○第十オ二ダ織オリ田ノ信シ長ナガガハヨシモトトイフ人ガイマ



ウチホロボ アシカバシ 足利氏の末 スエ 大名 ダイミヨ たえまなく ガナレ 亂る ミダ

尾張 チハリ しづめん ヨトサメ 思ひ起しけり オモヒタ 今 イマ

川義元 ガハヨシモト しきりに勝あて カチテ おどりしに タカブリテ

たましく チヨード (三六)あるまじと シマハ 安心しける アンシン

を ニシン 手勢 テセ 急に キユ 本陣 ホンゼン 首 クビ あら

はれ 人ガシル ひそかに コツツ 御使 オツカヒ 由 ヨシ 仰ありけり オホセ

如何にもして シドウ 大てい ダイ 平ぎたりき タヒラ

朝廷 チヨウテイ いたく キツ 皇居 ゴウキヨ 荒れはてし ア

(三七)改め造り アラタ 御料 ゴリョウ 毛利氏 モウリ 宿りし ヤド

害せられけり ガイ ついで ツグ 其臣 ソノシン 豊臣秀吉 トヨトミヒデオシ

討ち亡ほし ウツ のみならず ホロ 尊び タツ 第 ダイ

十三 トヨトミヒデオシ 豊臣秀吉 トヨトミヒデオシ 官職 クワンシヨク 朝鮮 チヨウセン

を伐あて ウ 木下藤吉郎 キノシタトウキチロウ 名乗り ナノリ 仕へし シ

面白き話 オモシロ (三六)毎朝 マイチヨウ 御供 オトモ 後る オク 或朝 アルアサ 常よ ツチ

今朝 ケサ 汝 ナシ 問ひ ト 今朝 ケサ のみには候はず サケ

差し出し サ 暖か アタ ければ ヌク 怒りて イカ

(三九)主人 シユジン 腰かけ コシ くらちものめ ケツ いか

左様なる サヨウ 無禮 ムレイ を仕る ツカマツ べき シツ 御足 ミアシ

亦國語讀本字解







の便ベン ユキキカヒラ 開けてヘテ コシラ (三三三) 狭きセマ 言ふイ に及オヨ ばず

イフマデアヒ 相往來アヒ ユキキカヒラ 外國カワイ に渡ワタ るものモノ へユクヘ モノニ へたて

ベツノモル いやしむミ 益マス 睦ムツ ましくク 相親アヒ しむシタ

ベタ きガ なりヒ ヨニ スル ガヨ イイ 鐵器テツ 毛織物ケ 鉛筆エン 彼カノ

國クニ コク ワイ 計ハカ るカン ガガ (三四) 航海コ 國益クニ 務ツト むベ きキ

ホネヲリカ 海國カイ 男兒コク マレ タラ トコ 本分ホン 近日キン 米國ジツ 御オノ

渡航ト の由ヨシ 御取オ こみトリ と存ツン じ候サ 進上シン 任ジ り候ツ 御オノ

なむマ けデ のしシ るマ しマ 迄マ クル シル シマ デデ 進上シン 任ジ り候ツ 御オノ

第十六 大和ヤマ 武雄ト 極キ てホ 大カ きホ くシ てテ 一イツ 周シ トヒ

リメ ググ 地チ 圖ツ 各カク 國コク 物モノ 語ガ シハ ナナ 大ダイ 陸リク (三五)

亞ア 細シ 亞ア 洲シユ 亞ア 米メ 利リ 加カ 洲シユ 三サン 倍バイ 程ホド 太タイ 平ヘイ 洋ヨウ 大ダイ 西セイ 洋ヨウ

北ホク 氷ヒョウ 洋ヨウ 南ナン 氷ヒョウ 洋ヨウ 球キウ 地チ 球キウ (三六) 大ダイ 方ホウ 屬ゾク 地チ 球キウ

たタ ぐグ ひヒ のノ 少ス ないク ノス クケ ナイ 眠ニ がガ しシ 小ス しかシ 小ス 肥ヒ えエ

風フウ 景ケイ 是ゼ 非ヒ (三七) 第ダイ 十ジュウ 七シチ 國クニ 民ミン のノ 心ココロ 得トク 小ス 卒ソツ 業ギョウ 校コウ 長チョウ 小ス

んン しシ 一イチ 案アン 内ナイ 老ロウ 人ジン 何ナニ 處トコロ 消シヨウ 防ボウ 組クミ 火カ

事ジ 消シヨウ しシ 止ト めメ さサ わワ ぎギ 役ヤク 目メ (三八) 入ニ 費ユウ カカ ノノ イイ 引ヒキ

受ウケ 同ドウ 様ヨウ 軍クン 事シ 役ヤク 所ショ 政セイ 治ヂ 納ナカ むム べベ きキ ママ スス ルル



租税 言ひ終つて 我席に著きました

校友會 有益なる 御話り

有難く存じ奉り候 右

御禮申上度かくの如くに御座候

○第十八色々の話 終に 萬世一系

おはしまして すべてさせられます

必要カンジ 事務ムキ 役人イン 法律オキ 規則リ 政府

議する 帝國議會(四)貴族院 衆議院 別れて

議員スルヒト 議決ヒヨギシ 御許し 取扱ふ 大臣 長官

地方 東京ヨリホカ 行政ヲオコナフ 國費リヨイ 陸軍省 文

部省 農工商業 農商務省(四)内閣 大臣ガヨツテ、マツ

重大キナコト 總理大臣 宮内省 皇室ノオイヘ 一切

○第十九 今上天皇陛下 學問を修め

職業を務め 安らかにクニ 此世に

立つを得る スコトガデキルコト 御恵に 御いさをガテ 御

親らゴジシ 源頼朝 専らヅニ 幕府の手にとり

手ニハ (四二)ことば いきざぼり 一たん 只

御位を守り給ふすがた ならり



き<sup>リ</sup>ナツテ<sup>マ</sup> **大政**<sup>タイセイ</sup> <sup>テン</sup>カノ **返上**<sup>ヘンジョウ</sup>シ<sup>ヘ</sup> **古**<sup>イニシ</sup>ノ **さま**<sup>ムカシ</sup>ニ **宮**<sup>キョウ</sup>

城<sup>シヨウ</sup> **鐵道**<sup>テツドウ</sup>を敷<sup>シ</sup>き **つと**に **學事**<sup>ガクジ</sup>ノ **起**<sup>オコ</sup>させ

サレ<sup>メ</sup> **かた** **あな** **か** **ザイ** **シヨ** **(四三)** **大勢**<sup>タイセイ</sup> **ア** **リ** **サ** **マ** **ノ** **み** **そ** **を** **は** **せ**

られ<sup>ラレ</sup> **憲法**<sup>ケンポウ</sup> **オ** **ホ** **モ** **ト** **發** **布** **せ** **ら** **れ** **て** **ナ** **サ** **レ** **國** **の** **も**

と<sup>コ</sup> **あ** **は** **レ** **是** **迄**<sup>コレマデ</sup> **あ** **づ** **か** **る** **ス** **ル** **コ** **ト** **ハ** **は** **ざ** **り** **に**

臣<sup>シン</sup>民<sup>ミン</sup> **意** **見**<sup>イケン</sup> **思** **召**<sup>オホシメシ</sup> **ケ** **ン** **○** **第** **二** **十** **大** **元** **帥**<sup>ダイケンスイ</sup>

大<sup>ダイ</sup>演<sup>エン</sup>習<sup>シユ</sup> **い** **と** **は** **せ** **ら** **れ** **ず** **ハ** **セ** **ラ** **レ** **ズ** **の** **ぞ** **み**

シ<sup>シ</sup> **(四四)** **狭** **き** **行** **宮**<sup>アンケイ</sup> **大** **御** **心** **注** **が** **せ** **ケ** **ニ** **ナ** **ル** **軍**<sup>ケン</sup>

服<sup>フク</sup> **ぬ** **が** **せ** **給** **は** **て** **サ** **レ** **ズ** **夜** **を** **明** **か** **さ** **せ** **ら** **れ** **し**

ヨ<sup>ヨ</sup>ド<sup>ド</sup>ホ<sup>ホ</sup>シ<sup>シ</sup> **ま** **ま** **あ** **り** **き** **と** **ぞ** **承** **は** **る** **シ** **タ** **至** **尊**<sup>シツン</sup>

コ<sup>コ</sup>ノ<sup>ノ</sup>ウ<sup>ウ</sup>ヘ<sup>ヘ</sup> **國** **家**<sup>コクカ</sup> **御** **し** **ん** **ろ** **一** **畏** **れ** **多** **き** **忠** **義**<sup>チュウギ</sup>

に<sup>ニ</sup> **富** **め** **る** **心** **ノ** **フ** **カ** **イ** **感** **ぜ** **ざ** **る** **は** **な** **く** **敵** **地**<sup>テキチ</sup>

チ<sup>チ</sup> **(四五)** **國** **威**<sup>コクイ</sup> **行** **き** **と** **け** **り** **や** **否** **や** **御** **即** **位**<sup>ゴツク</sup>

カ<sup>カ</sup> **親** **し** **く** **御** **巡** **幸**<sup>ゴジュンコウ</sup> **い** **た** **は** **り** **御** **即** **位**<sup>ゴツク</sup>

ニ<sup>ニ</sup> **國** **運**<sup>コクウン</sup> **進** **歩**<sup>シンポ</sup> **大** **御** **代**<sup>オホミ</sup> **實** **に** **幸**<sup>サイハヒ</sup>



小學國語讀本字解終

明治三十四年九月十五日印刷  
明治三十四年九月二十日發行

編纂兼  
發行者

大塚 宇三郎

大阪市南區安堂寺橋通四丁目三三三邸

賣捌所

田中 宋榮堂

大阪市南區安堂寺橋通四丁目

(電話東一七七四番)

賣捌所

星野 文星堂

名古屋市中區宮町一丁目四番戶

大阪市南區東新瓦屋町二二六番邸

印刷者

梶原 謙吉

(電話東二五八四番)

不復  
許製



